

障害者基本計画の論理(仮説)構成ver.3

結論	方針	施策	取組	アンケートで知りたいこと
<p>基本理念(案) 「どんな障がいがあっても、ずっと安心して暮らせるまち」</p> <p>【エッセンス】 誰もが健やかに成長できる療育や学校教育の提供、障がいのある方が生きがいを感じられる就労などの居場所の確保。医療的ケア児も含めて誰もが不安なく暮らせる環境づくりを進めることで、どんな障がいがあっても、ずっと安心して暮らせるまちを実現する。</p>	<p>基本目標① 「誰もが健やかに成長できるまちづくり」</p> <p>【エッセンス】 発達に特性がある子どもを受け入れる療育を費・量ともに充実を目指し、学校教育における受け入れ態勢や個別支援の充実、保護者の子育ての悩みに対応する相談窓口や子ども発達センターの強化を通して、誰もが健やかに成長できるまちづくりを実現する。</p>	<p>1 魅力ある療育体制の整備<重点></p> <p>【エッセンス】 子ども人口増加を背景に、療育サービスへのニーズが高まっているものの、事業所数不足や専門職の配置が少ないこと、保護者の不安が懸念されている。 療育事業所の数を増やすだけでなく、専門職の配置など、質的向上にもつながる事業所支援を検討し、療育サービスの充実を通じ、発達に懸念がある子どもの社会性の向上を図る。</p>	<p>・障害児通所支援事業の充実 ・療育事業者の充実 ・療育関係機関の連携強化</p>	<p>・療育の利用がスムーズに開始されているか。 ・必要性を認識し、から利用開始までに障害となっていることはあるか。 ・事業所の不足感が調査によってどの程度裏打ちされるか。 ・療育のニーズの特徴(事業所選定の決め手、今後利用したい事業所の特長、配置希望の専門職など)はどのようなものか。 ・上記の点について、所属学級(障がいの重さ)によって傾向が見られるか。 ・事業所による受入状況、専門職の配置に当たって市に望む支援は何か。</p>
		<p>2 教育における支援の充実</p> <p>【エッセンス】 障がいや発達に特性がある子どもが、そうでない子どもと一緒に学ぶことは、共生社会の構築に欠かせないものの、学校における受け入れ態勢に課題がある。一人一人異なる障がいの特性に合わせた教育も求められる。 学校における受け入れ態勢や特別支援教育の充実を図り、関係機関とも連携しながら、障がいの特性に応じた教育を提供していく。</p>	<p>・保育における受入れ体制の充実 ・学童における受入れ体制の充実 ・特別支援教育の支援体制づくり ・学校等と関係機関の連携 ・教育相談活動の充実</p>	<p>・教育現場で障がいや発達の特性に合わせた指導を受けている実態はあるか。障がい程度や所属学級によって傾向がみられるか。 ・上記の点について、所属学級(障がいの重さ)によって傾向が見られるか。考えられる原因は何か。 ・教育に関してもどのような取組が望まれているか。</p>
		<p>3 子育ての悩みに寄り添う窓口の充実</p> <p>【エッセンス】 発達に懸念がある子どもをスムーズに適切な福祉サービスにつなぐため情報提供、相談体制・関係機関の連携は十分とはいえない。必要な支援を受けられずに、精神的ストレスを抱える保護者が多く存在する。 発達に懸念がある子どもを早期に見出して療育サービスにつなげることや、保護者の悩みを受け止めるために、相談体制や子ども発達センターの強化を行う。</p>	<p>・育児・相談の充実 ・子ども発達センターでの相談の充実 ・地域子育て支援拠点事業 ・家庭児童相談の充実 ・子どもなんでも相談窓口の設置</p>	<p>・障がいや発達に特性のある子どもの保護者は、どのようなストレスや悩みを抱えているか。所属学級によって傾向がみられるか。 ・子育ての悩みについて適切な相談窓口につながるか。求人情報などどのような点に工夫や相談がしやすいのか。 ・障がいや発達の特性により、保護者の就労やきょうだい児の子育てに影響が生じているか。 ・不安やストレスを軽減するために、どのような支援が望まれているか。</p>
<p>基本目標② 「誰もが居場所があり、生きがいを持つまちづくり」</p> <p>【エッセンス】 障がいのある方の就労を容易にするための取組や地域での自立、社会参加を支援するとともに、それが自然と受け入れられる社会的な理解を醸成することによって、誰もが居場所があり、生きがいをもてるまちを実現する。</p>	<p>どのように?HOW</p>	<p>1 障がいのある方の就労支援の強化<重点></p> <p>【エッセンス】 企業における法定雇用率の上げや近年の人手不足などを背景に、障害者雇用は広がりを見ているものの、障がい特性から就職や職場定着に課題あり、支援を必要とする方ははたまた多く存在する。 就労支援相談員による就職に向けたサポートや就職につながる訓練系サービスの提供、企業と障がい者の出会いの場を設定することで、働く意欲のある方の就労を後押ししていく。</p>	<p>・就労支援相談員の設置 ・就労移行・就労継続支援サービス ・障がい者雇用の促進 ・就労に関するイベント ・重度障害者等就労支援特別事業 ・優先調達の推進 ・ハローワークとの連携</p>	<p>・現在働いているか、就労先はどこか。働いていない理由は何か。手帳の種類や障がい程度による傾向がみられるか。 ・仕事を保つ難さ、どのような点を重視しているのか。求人情報などどのような点に工夫や相談がしやすいのか。 ・就労支援にあたって、どのような取組が望まれているか。手帳の種類や障がい程度によって傾向は見られるか。</p>
		<p>2 自立や社会参加の推進</p> <p>【エッセンス】 障がいのある方が施設や家族の見守りの下で暮らすというこれまでの考え方から、地域での自立した暮らしへの転換が求められる。しかし、障がいのある方が地域で自立し、社会参加していくことには、多くの課題がある。 地域での見守り体制の構築など包括的な支援体制を整え、障がい者支援に備えるとともに、障がいのある方が生きがいを持つ社会参加の場を整備していく。</p>	<p>・社会的自立に向けた支援 ・精神的苦しみにも対応した地域包括ケアシステムの構築 ・地域自立支援協議会 ・地域生活への移行支援及び入所施設等への支援 ・生涯学習の推進 ・障がいのある人のスポーツ振興 ・障害者団体の育成・支援 ・福祉活動の拠点の整備 ・ボランティア活動の支援 ・市民活動の支援と情報提供</p>	<p>・暮らし方(一人暮らし、家族と同居)、手帳の種類や障がい程度、収入によって傾向が見られるか。主に自宅で過ごしている方の活動内容は何か。 ・社会参加の状況はどのようなものか。どのような取組によって参加が容易になるか。</p>
		<p>3 共生社会構築のための理解の醸成</p> <p>【エッセンス】 障がい者の権利擁護や障がいに対する理解促進については、法制度の整備や教育が行われてきたものの、依然として根深い偏見が存在する。そのことが、障がい者の社会参加をはじめ、地域共生社会の構築を困難なものとしている。 障がいのある方も地域でともに暮らすのが当たり前という共生社会の理念を広めるため、広報活動や福祉教育を通じ、市民理解の醸成を図る。</p>	<p>・市民に対する障がい福祉への理解促進 ・社会福祉協議会の広報活動の充実 ・障害者差別解消法・障害者虐待防止法の周知 ・人権擁護の推進 ・小中学校における特別支援教育の推進 ・出前講座による福祉教育 ・多量障害者差別禁止条例の周知 ・旧西市障がい者虐待防止センターの設置及び周知 ・成年後見制度の利用支援及び促進</p>	<p>・障がい者が地域で暮らし、社会参加することに対する一般市民の理解はどのようなものか。 ・一般市民と障がいのある方の接点はどこくらい見られるか。一般市民が参加してみたいイベントはどのようなものか。 ・障がい者支援に係る各ジャンル・ポルマークの認知はどのくらい進んでいるか。 ・地域での障がいへの理解はどのように感じられるか。差別や理解していないと感じた経験や場面はどのようなものか。 ・理解を深めるために望まれている取組は何か。</p>
<p>基本目標③ 「誰もが不安なく暮らせるやさしいまちづくり」</p> <p>【エッセンス】 医療的ケア児とその家族が安心して暮らすための支援体制の整備、障がいのある方の暮らしを支援するサービスの充実、生活環境のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、災害や病気のなどのリスク発生時の不安を解消する取組を推進し、誰もが不安なく暮らせるやさしいまちづくりを実現する。</p>	<p>どのように?HOW</p>	<p>1 医療的ケア児とその家族への支援<重点></p> <p>【エッセンス】 多くの困難を抱える医療的ケア児については、支援のための社会的資源や情報不足が顕著となっている。家族へ過大な負担がかかり、生活や就労に与える影響も大きい。 相談から情報提供、支援まで、様々な機関が連携して対応する体制を整え、医療的ケア児とその家族が安心して暮らせるまちを実現する。</p>	<p>・支援関係者の対話の場の設置 ・医療的ケア児専任コーディネーター配置 ・医療的ケア児及びその家族への支援事業 ・特別支援学校に通う医療的ケア児の通学支援制度</p>	<p>【医療的ケア児の保護者にインタビューを実施】 ・日常生活で不安に感じていること、その解決に必要な支援は何か。 ・災害時に不安に感じていること、支援が必要となることは何か。 ・子どもの養育についてどのような機関から助言を受けているか。 ・特別支援学校への送迎で困難に感じていることや必要は支援は何か。 ・医療的ケア児を養育するうえで、保護者の就労などにどのような影響が出ているか。</p>
		<p>2 相談支援や福祉サービスの充実</p> <p>【エッセンス】 障がいのある方の日常生活は、在宅福祉サービスの提供や生活用員の給付など、様々な支援を必要とする。困りごとを受け止めて解決に導く相談窓口や福祉を担う人材育成も欠かせないが、事業所の人手不足などの課題が存在する。 きめ細かな相談支援ができる体制を整備するとともに、障がいのある方のニーズを踏まえたサービスの充実、福祉人材の確保などに取り組んでいく。</p>	<p>・福祉総合相談窓口の設置 ・相談機関の連携と情報の共有 ・基幹相談支援センターの設置 ・障がい福祉サービスの充実 ・地域生活支援事業の実施 ・生活を支援する用具の給付 ・緊急通報装置、配食サービス ・事業者への支援 ・福祉人材の確保・定着</p>	<p>・事業所の人員不足の状況やサービス提供への影響、市に望む支援とは何か。 ・サービス提供に当たって事業所が抱える課題は何か。 ・相談機関につながった経験、窓口が機能しているか。相談経験が無い方は、その理由は何か。どのような窓口であれば相談がしやすいか。 ・福祉サービスの情報はどのようなルートで入手され、今後充実にすべき課題は何か。</p>
		<p>3 「誰もが行ける・使える」ユニバーサルデザインの推進</p> <p>【エッセンス】 建物などのバリアフリーだけでなく、コミュニケーションを促進するための交通、移動手段の提供など、様々な場所やコソへのアクセスを容易にすることが欠かせない。 建物などのバリアフリーを見直すとともに、コミュニケーション機器や手話通訳者の配置、外出の支援などを通して、市全体ユニバーサルデザイン(誰もが行ける・使える)を推進する。</p>	<p>・バリアフリーの推進 ・バリアフリーに関する庁内検討及び研修会の実施 ・インクルーシブ公園の整備 ・手話通訳者の設置と派遣 ・手話人材の育成 ・広報・HPの充実 ・利用しやすいバスの利便性向上 ・外出支援サービスの推進 ・福祉力への貸し出し ・福祉タクシー券の配布</p>	<p>・市の施設でバリアフリーに課題があると感じられているものは何か。 ・外出時にどのような困難があるか。その解決のためにどのような取組が望まれているか。 ・買物の頻度や移動手段、買物支援はどのような形態が望まれているか。 ・上記の点について、手帳の種類や障がい程度、大人・子どもによる傾向は見られるか。</p>
		<p>4 「もしもの時」の安心につながる支援の充実</p> <p>【エッセンス】 災害が発生した際の避難方法、避難所での受け入れ体制、障がい者が悪化した場合の医療体制が十分であること、障がい者が安心して「もしもの時」の不安は、より大きい。 避難行動要支援者の支援体制や福祉避難所の整備とともに、医療供給体制の充実や医療費の助成による負担の軽減を通じ、障がいのある方の「もしもの時」の不安を解消していく。</p>	<p>・避難施設等の整備・充実 ・災害時の広域連携の充実 ・避難行動要支援者 ・災害時保健医療の整備 ・健康づくり、健康診査 ・学校保健事業、介護予防事業 ・医療費の助成 ・各種福祉手当</p>	<p>・災害時に避難所に積極的に避難する意思はどのくらい見られるか。避難所に行かない理由何か。 ・避難所のどのような点が不安に感じられているか。不安解消のためにどのような取組が望まれているか。 ・医療機器使用の方の停電対策の状況 ・病院への通院状況、手帳別や年齢による傾向 ・健康管理や医療についてどのような支援が望まれているか。</p>